

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



初任者研修①（防災教育・租税教育）



令和4年8月4日（木）午前9時～10時30分に初任者研修（防災教育研修）を行いました。研修講師は八尾市危機管理課佐々木康弘課長補佐で研修テーマは「災害を知る 災害に備える ～八尾市で想定される災害～」です。地震や水害などの災害が重大な被害をもたらすことの多い今日、八尾市の現状を知り正しく備えることが必要です。
※左側写真

令和4年8月4日（木）午前10時30分～午前11時に初任者研修（租税教育）を行いました。研修講師は堺税務署山本知子税務広報官で研修テーマは「租税について」です。憲法上の義務である納税について、租税教育の意義や学校教育との関係についても触れながらご講義いただきました。

※右側の写真



＜受講者感想＞

- ・学校で地震が起きた時は慌てず冷静に行動して、生徒が安全に行動できるようにいろいろなケースを想定しておくことが大切だと思った。
- ・防災教育については、生徒に教える前に八尾で想定される災害や八尾市の現状をもっと詳しく知っておかないといけないと思った。今日の研修はそれを満たすものであった。
- ・税金の種類やどのような場面に税金が使われているかなどをわかりやすく解説した動画があると知ったので、ぜひ学校でも活用していきたい。
- ・税のことについては知らないことも多かったが、実際に授業を行う時は「出前授業」なども有効に活用していきたい。

初任者研修②（授業づくり研修5）



令和4年8月4日（木）午前11時～午後0時0分に初任者を対象として授業づくり研5を行いました。研修講師は本センター川村泰司指導主事で研修テーマは「学習指導案について」です。

学習指導案は各自の教材観や児童生徒の学習状況などを考えながら、学習指導要領に示された内容を授業として表現してい

くものです。授業評価は、児童生徒の到達状況を知り、授業を行った教師の反省材料とするものです。そのためには指導案の中で評価規準を明確にし、指導と評価の一体化をめざします。

<受講者感想>

- 教材研究をしっかりとして授業に挑むことが大切だと実感した。研究授業がなくても、日々、試行錯誤を繰り返して挑戦していくことが授業力を磨くことにつながるのだろうと思う。
- 他の研修受講者と交流する中で、「1学期にうまくいったと感じられた授業」は、生徒が主体的に学習に取り組んでいるものが多かった。2学期以降さらに教材研究をして、生徒が主体的に取り組めるような授業をより多く展開していきたい。
- 学習指導案の書き方について、より詳しく学ぶことができた。次回指導案を作成するときには、今日学んだことをしっかり生かしていきたい。

研究協力員（社会科部会）



令和4年8月4日（木）午前10時30分～午後0時30分に「みせるばやお」で東大阪市・柏原市・八尾市3市による中河内三市合同研究会（社会科部会）が行われました。八尾市立用和小学校の西尾健太郎教諭が、工場見学や聞きとり学習など、市内の企業に協力を仰ぎながら実践した授業の報告を行いました。学習支援ソフトを活用した学びやテレビ会議システムを活用した「オンライン工場見学」など、ICT機器を活用した学習について令和3年度の八尾市教育センター研究協力員として取り組んだ研究成果についても報告しました。

※みせるばやお（リノアス八尾8階にある市内企業の魅力を発信する拠点施設）

初任者研修⑬⑭（野外活動研修）

令和4年8月5日（金）午前9時～午後1時に初任者研修（野外活動研修）を行いました。研修メニューは講義「野外活動の意義」、実習「オリエンテーリング」・「火起こし体験」・「耐熱袋で作るカレーの作り方」です。研修場所は八尾市立大畑山青少年野外活動センターアクトランド YAO です。研修講師は野外活動センター所長の宮嶋啓太さんです。当日は不安定な天候で、激しい雨が断続的に降りました。その結果八尾市に大雨洪水警報が発令され、「オリエンテーリングは中止せざるを得ませんでした。



<受講の様子>

野外活動を通じて子どもたちを指導する時大切にしなければならないこと等について、宮嶋所長から講義がありました。



火起こしの方法は二つです。一つはマッチを使って、もう一つはファイアースターターを使ってです。ガスコンロは自動着火、IHは着火の必要すらありません。マッチを必要としない世代にはこの体験も重要です。ファイアースターターはマグネシウムの棒を鉄の板で擦って火花を散らして着火します。マッチに比べて濡れにも強く、防災アイテムとして注目を集めています。ただし、火花を飛ばすにも少しコツが必要です。ましてや火花で着火するのはかなりの試行錯誤が必要でした。班内で教え合いコミュニケーションを深めることもできました。写真はファイアースターターでの着火の様子です。



各自が2つの耐熱ナイロン袋に白米と水、カレーの具材とルーと水を入れて口を閉じ、沸騰した湯の中で20分間温めるとカレーとライスが完成します。この方法で災害発生時に温かい食事を手軽に作ることができます。着火の係は体験したばかりのファイアスターターで着火して、着火剤で炭に火をつけます。炭は着火しても団扇で扇がなければなりません。交代で扇ぐなど、ここでも班員同士の協力の姿が見られました。



完成したカレーとライスを持って館内各所に分かれて食べました。左の写真の班は和室で食べることになりました。コロナ感染防止のため密を避けて同一方向を向いての黙食です。最初はこんな方法で本当にカレーライスができるのか心配する参加者もいましたが、出来栄は上々で満足げにカレーライスを食べていました。



耐熱ナイロン袋を使っての調理は、鍋を汚さないというメリットもあります。鍋の内側は湯を沸かすだけ、外側にはあらかじめ粉洗剤を塗っておいてすすが付くのを防いでいます。あとは紙皿とプラスチックスプーンだけです。災害発生時には水も十分には手に入らないという状況が想定されるので、有効な調理方法と言えます。

<受講者感想>

- ・今回の研修で同じグループになった他の先生と親睦を深めることができた。野外活動が生徒たちも他の生徒との協力を通して親睦・絆を深めることができると身をもって実感することができた。
- ・ファイアスターターは初めて使ったが、災害発生時に水にぬれてもすぐ着火できる威力は有効だと思う。私は班の中で着火するのが一番遅かったが、同じ班の仲間から教えてもらったり励まされたりしてとても嬉しかった。
- ・研修中に雨が降ったら雨天時プログラムが準備されていた。臨機応変に対応が行われプログラムの入れ替えがされていたことが印象的だった。これは学校行事の時にも必要となることだと思った。様々な場面を想定し、事前に協議し、しっかりした計画・準備を行うことの大切さが分かった。

「国語」授業づくり研修①②



令和4年8月15日(月)午前9時30分～午前11時30分、午後1時30分～午後3時30分に、「国語」授業づくり研修①②を行いました。午前は小学校、午後は中学校の教員を対象とした研修内容です。研修テーマは「国語科に固有のものの見方・考え方を探る ～資質能力を育成する言葉の力の基底～」です。研修講師は大阪教育大学の住田勝教授です。

※AM=①小学校 PM=②中学校

<受講者感想>

- ・小学校で学習することが中学校での学習につながっているということがよくわかった。まだまだ、難しい課題はたくさんあるが、しっかり研究していかなければいけないと思った。
(小学校教諭)
- ・今回の研修では、子どもに「書き手として読ませる・表現させる」という明確な筋が通っており、そういったことを意識すれば一貫性のある、子どもの学びにもつながりやすい授業が開けると思った。
(小学校教諭)
- ・国語の授業で、資質能力を育てる授業を組み立てていくにはどうすればいいか、多くのヒントをいただいた。
(中学校教諭)
- ・小学校教材とのつながりを意識することで、子どもたちの学びがより深まることが理解できたので、そのことを意識して授業を作っていきたいと思う。
(小中学校教諭)

「理科」授業づくり研修



令和4年8月16日(火)午後2時～午後4時に理科授業づくり研修を行いました。研修テーマは「楽しい理科授業の組み立て方 ICT 機器の利活用を考える」です。研修講師は立命館大学山下芳樹教授です。

<受講者感想>

- ・結果を最初に提示し、子どもたちに疑問や興味を持たせたいという内容に入っていくという方法を、積極的に授業に取り入れていきたい。
- ・理科教育の歴史を学ぶ中で、たくさんの気づきがあった。様々な試行錯誤を経た教科書をしっかり理解していくことが大切だと感じた。
- ・「考察」のタイミングでICTを使うことが有効であるということが分かった。今後積極的にICTを活用させていきたい。

理科実験研修「理科からはじめる学び合い」(大阪教育大学)



令和4年8月22日(月)午前9時30分～午後5時に大阪教育大学の「理科から始まる学び合い」研修に八尾市の3年目の小学校の先生その他が参加しました。班に分かれ、大学の先生からの指導のもと少人数のワークショップ形式で学んでいきます。

今回の研修のめあては「6つの水の正体を同定せよ!」で、研修の中で失敗やトラブルの対処方法や安全面での注意点などが確認されました。何より受講者の気づきを大切にしたい研修でした。

2年次研修(社会体験研修)

令和4年7月～8月の夏季休業中に2年次研修として社会体験研修を行いました。研修テーマは「地域社会との連携を図り、幅広い教員として資質向上を図る」です。図書館(八尾)、青少年会館(桂・安中)、公立認定こども園(南山本せせらぎ・西郡そよかぜ・志紀おおぞら・安中ひかり・東山本わかば)に分かれて研修させていただきました。1人1か所2日間です。



東山本わかばこども園



安中青少年会館

＜受講者感想＞

- ・学校外での児童の様子を知ることができた。他校・他学年の児童の交流や、児童一人ひとりに合った過ごし方を観ることができた。 (青少年会館)
- ・園内のいたるところに視覚支援の工夫（スリッパをそろえる位置や順番に並ぶ位置等）がされていた。学校でもユニバーサルデザインとして生かせそうである。 (こども園)

「生活」授業づくり研修



令和4年8月23日（火）午前9時30分～午前11時30分に「生活」授業づくりを行いました。研修テーマは「生活科学習の指導と評価～スタートカリキュラム、子どもの学習活動と評価～」で研修講師は関西福祉科学大学の馬野範雄教授です。

＜受講者感想＞

- ・自分のことを表現するのは子どもにとって難しい場合もあると思うが、グループワークで友達の意見を取り入れて認めてもらうことや褒められることで自己肯定感を高めることにつながるのとはとても良いと思った。
- ・本日の研修で、心に残ったキーワードは、「見えないことを見える化する」ということである。日々の取り組みの中で、どうしても発表して満足という子どもたちの様子もあるが、もう一步踏み込んで、気持ちや思いを交流しあうことで学びが深まるんだと改めて確認できた。また、評価についても悩む部分が多い教科だと思うが、「主観→客観」に繋げることで根拠のある評価につながるということも分かったので、2学期以降に活かしていきたいと思う。

「総合」授業づくり研修



令和4年8月23日（火）午後2時～午後4時に授業づくり研修「総合」を行いました。研修テーマは「『総合的な学習の時間』の指導と評価～個別最適化を意識した授業づくりと評価～」で、研修講師は関西福祉科学大学の馬野範雄教授です。

＜受講者感想＞

- ・SDGsは今、社会にとってとても必要な考え方であると思うので、それについて議論することは必要だと思う。子どもたちが、主体的に話し合い、調べながら知識を獲得していくという流れの重要性を感じた。

- ・実際に調べ、まとめ、発表し、評価し合う活動がとても子どもたちにとっても学びあるものであることを実感することができた。互いの良さを認め合いつつ、新しいことを自然と習得できる授業を作っていきたいと思う。
- ・研修の事前課題に取り組んで、いい教材研究になった。先生方からコメントを頂けるととても嬉しかった。子どもも同じ気持ちなのだろうなと改めて実感した。

「家庭」授業づくり研修



令和4年8月24日（水）午前9時30分～午前11時30分に「家庭」授業づくり研修を行いました。研修テーマは「家庭科の授業づくりと評価」で研修講師は大阪教育大学の鈴木真由子教授です。

＜受講者感想＞

- ・事例をふまえながらお話いただいたので、とてもわかりやすかった。授業に活かせるヒントもたくさんいただいたので、早速2学期から実践してみたい。
- ・「家庭科」は生活そのもの。すべてが生活科に結び付く。
- ・グループワークの有効な実施方法も紹介していただいたので今後取り入れていきたい。

「図画工作」「美術」授業づくり研修

令和4年8月24日（水）午後2時～午後4時に「図画工作」「美術」授業づくり研修を行いました。研修テーマは「造形活動～素材を生かす・考える・つくる授業をめざして」で研修講師は大阪芸術大学の車谷哲明教授です。



＜受講者感想＞

- ・図画工作の作品作りでプラスやマイナスなどの視点がなかったので、教えていただいてその通りだなと実感した。マイナスだからこそ頭を使う「主体的に考える」というのを実際に体験もでき、すぐに子どもたちとの実践に活かしていきたいと思った。他のアイデアについても、今後そういう視点で自分でも考えることができると思う。

※造形活動においては、貼ったり（接着）、付け足したり（合体）するプラスの行為を「+表現」という。彫ったり削ったり、穴を空けたり、切り取ったりする行為を「-表現」という。

- ・段ボールやコピー用紙などの身近なもので楽しく図工ができ、子どもたちにも楽しいと思えるような授業にしたい。

研究協力員（食育部会）

令和4年8月24日（水）午後2時～午後5時に研究協力員（食育部会）を行いました。今回は学務給食課とのコラボレーションで、上之島中学校の教室をお借りして次年度2学期から始まる中学校給食の流れを説明するためのビデオと写真を撮影しました。先生役・生徒役に分かれて運搬・配膳等の場면을演じました。小学校で行われてきた給食のノウハウを中学校でも生かせるよう工夫しています。



教育センター避難訓練

令和4年9月2日（金）午後1時30分から教育センターの避難訓練を実施しました。この訓練は「大阪880万人訓練」のエリアメールによる通報が鳴り響く中で行われ、緊張感を持って行うことが出来ました。訓練の流れは、地震発生と同時に執務室の給湯器のあたりから火災が発生したという想定です。近くにいた職員が消火器で初期消火を行い、各部屋にいた所員が来所者等を誘導しグラウンドに集合しました。打抜所長から参加者に、「いつどんな災害が起こっても適切に対応できるように、普段から準備をしておくように」との訓示がありました。

その後2階の研修室で各係からの選抜者で救急蘇生法の実技研修を行いました。研修講師は本センターの鈴木雅博指導主事です。研修は主にAEDの使用方法を確認することと胸骨圧迫による心肺蘇生の練習を行いました。学校園等でもこの研修は毎年のように行われますが、常に本番のつもりで真剣に取り組むことが肝要です。



教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は8月から9月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）9月号

- ・特集1 主体的・対話的で深い学び
- ・特集2 過敏な子ども

「道徳教育」（明治図書）9月号

- ・永久保存版 導入&終末の工夫 Best Selection

「こころの科学」（日本評論社）No.225 9月号

- ・特別企画 病みつつ働く人の支え

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）9月号

- ・特集1 「マスクを外せない子」の理解とかかわり
- ・特集2 「子どもが相談しやすい先生」になるひと工夫

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集、東洋館出版社）9月号

- ・特集 学び合い・高め合う教員研修

「初等教育資料」（文部科学省編集、（株）東洋館出版社発行）9月号

- ・特集Ⅰ 校内研修の充実
- ・特集Ⅱ [理科]「差異点や共通点を基に、問題を見いだす力」を育成する

「中等教育資料」（文部科学省編集、学事出版）9月号

- ・特集 地域との協働による教育の推進
—社会に開かれた教育課程を実現する—

教育科学「国語教育」（明治図書）9月号

- ・特集 徹底研究「ごんぎつね」「故郷」の授業

教育科学「社会科教育」（明治図書）9月号

- ・特集 子どもを歴史好きにする！
見方・考え方を働かせる歴史授業

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集、東洋館出版社）9月号

- ・特集 算数の「協働的な学び」と数学的活動